

## NY商品、原油が小幅続伸 ウクライナ情勢への警戒続く 金は続伸

1日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は小幅に3日続伸した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の3月物は前日比0.05ドル（0.1%）高の1バレル88.20ドルで取引を終えた。一時は88.87ドルと2014年10月以来の高値を付けた。ウクライナ情勢への警戒感から原油需給の引き締まりが引き続き意識され、買いが優勢となった。

買い一巡後は高値警戒感から売りが出て上げ幅を縮小した。石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟国で構成する「OPECプラス」が2日に会合を開くのを控え、持ち高調整の売りも出た。市場ではOPECプラスが現行の増産ペースを維持するとの見方が多いが、内容を見極めようとする雰囲気も強かった。

ニューヨーク金先物相場は続伸した。ニューヨーク商品取引所（COMEX）で取引の中心である4月物は前日比5.1ドル（0.3%）高の1トロイオンス1801.5ドルで取引を終えた。外国為替市場でドルが主要通貨に対して売られ、ドルの代替投資先とされる金を買われた。

## サウジ産原油7年ぶり高値 1月積み、供給不安強まる

日本の石油会社が長期契約で輸入する原油価格が大幅に上昇した。サウジアラビア産の代表油種「アラビアンライト」の1月積み価格は1バレル86.83ドルで、2021年12月積みには比べ10.97ドル（14.5%）上がり、2014年9月以来、7年4カ月ぶりの高水準に達した。値決めのベースになるドバイ原油が急伸した影響を受けた。アラビアンライトの上昇率は、前月比2割上昇した20年7月積み以来の大きさとなった。ウクライナ問題を巡り、世界生産の1割を占めるロシア産原油の輸出が米欧の制裁で減るとの警戒感が台頭。親イラン武装組織フーシ派がアラブ首長国連邦（UAE）に攻撃を加えたことも供給不安を強め、ドバイ原油の1月の月間平均は昨年12月平均に比べ14%上昇した。

日本が長期契約で輸入する原油は直接取引（ダイレクト・ディール=DD）原油と呼ばれ、ドバイ原油とオマーン原油の月間平均価格に調整金を加減して毎月値決めしている。原油需給の引き締まりを背景に、1月積みは調整金も引き上げられていた。

## パーム油先物、最高値 インドネシア輸出規制で

揚げ油やマーガリンなどに使うパーム油の国際価格が過去最高値を付けた。指標となるマレーシア先物（中心限月）は31日、一時1トン5700リングと年初から17%上がった。世界最大の生産・輸出国のインドネシアが輸出を規制する方針を示した。最大輸入国インドなどの需要は底堅く、需給逼迫を見越した買いが入った。原油価格の上昇も材料視された。

パーム油は世界で最も需要が多い植物油で、化粧品やバイオ燃料にも使う。インドネシアとマレーシアで世界の供給量の約9割を占める。ロイター通信によると、インドネシアは27日に国内の食料価格抑制のため輸出量の20%を国内向けに販売するよう義務付けると発表した。輸出規制の期限は明確になっていない。

世界2位の輸出国マレーシアの生産量は伸び悩んでいる。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い入国規制を導入し外国人労働者が減少。パーム油の原料となるアブラヤシの果実の収穫作業の担い手が不足し、生産効率が落ち込んでいる。同国のパーム油庁（MPOB）によると、21年12月の輸出量は141万トンと前年同月比14%減った。

ウクライナ情勢の緊迫などで原油高が続いており、バイオ燃料の需要増が意識されている。同じ植物油の大豆油も値上がりしていることも強材料。マーケットエッジの小菅努代表は「パーム油相場は天井が見えづらくなっている」と話す。

## 内航船燃料4%高提示 伊藤忠エネ、1～3月の適合油

燃料商社大手の伊藤忠エネクスは1～3月期の内航船向け燃料の参考仮価格を明らかにした。国際海事機関（IMO）の新規制に対応した硫黄分0.5%以下の「適合油」は前四半期（2021年10～12月期）比3400円（4%）高い1キロリットル7万9400円とした。原油相場や為替などを踏まえて決めた。適合油価格は石油会社と海運会社の代表社で交渉し、決着した価格が業界の指標となる。3月下旬までの決着を目指して交渉を進める。今期は2020年に始まった現行制度下で過去最高だった前四半期を上回る価格の提示となった。

## 三菱ケミカル、アクリル樹脂原料を値上げ

三菱ケミカルと三菱ケミカルメタクリレーツ（東京・千代田）は、塗料や自動車、透明板などに使うアクリル樹脂の原料を2月1日出荷分から1キログラム25円以上値上げすると表明した。値上げの表明は2021年3月以来となる。原料の高騰を製品価格に転嫁する。

値上げの対象はMMA（メチルメタクリレート）、MMAから作られるMAA（メタクリル酸）などだ。MMAの主原料はナフサ（粗製ガソリン）高で値上がりしている。いずれも需要は堅調で、MMAは住宅用塗料、MAAはゴム手袋向けなどが増えているという。